

I. はじめに

研究代表 日隈ふみ子

本学は、仏教精神に基づき、生老病死に関わる諸問題に対応できる人材育成を目指している大学であり、7学部14学科を有している。そのなかでも、仏教学部をはじめとして、社会福祉学部、保健医療技術学部（理学療法学科、作業療法学科、看護学科）など、人のケアにかかわる学部や学科があることから、本学における保健医療福祉専門職のための多職種連携教育（Interprofessional Education：IPE）を行う基盤があるのではないかと考えた。

そこで、看護学科の教員の有志が社会福祉学部や作業療法学科の教員数名に呼びかけ、平成26年1月に非公式の会合を設け、佛教大学ならではの他学部との連携教育を模索するために自由な話し合いの機会とした。ただ看護学科は、佛教大学の中では最も新しい学科で、平成24年度開設という開設間もない学科であることから、仏教の理念の理解が必要であった。まずは、「共生（ともいき）」という理念を看護学科としてどのように理解し、学科教育のバックボーンにするかの検討と、看護学科と他学部や他学科との連携を見据えた教育のあり方を模索するために、あらためて社会福祉学部や保健医療技術学の他の学科に声を掛け、平成26年度に、正式に「ともいきの会」を発足させ、6回の会議を実施した。「ともいきの会」での議論を重ねるなかで、情報交換的な議論から研究的な観点での取り組みへと舵を切ることとした。

諸外国、特に英国、米国、WHO等におけるInterprofessional Education（IPE：多職種連携教育）やInterprofessional Work（IPW：多職種連携実践）の実際について、既にその研究に精通している看護学科の松岡千代教授からレクチャーを受けることにより、IPEやIPWに関する共通理解を計った。また、日本においても看護学や医学を中心にIPEの教育を取り入れているがまだ少数の大学であること、在宅領域等では看護師、理学・作業療法士、社会福祉士等の多職種との実践における検討が始まっていること、多職種連携の必要性への関心の高まりはあるものの、その普及や実践力の育成は、まだ十分とは言えない現状であること等の共通認識ができた。

これらのことから本学においてもIPEやIPWに関する研究の意義は大きいと考えて、現状の健康課題に対応できる人材育成のためにも、学部や学科を超えて有機的なつながりのある教育プログラムの開発や実践の可能性を視野に、「ともいきIPEプロジェクト」と会の名称をあらため、平成26年の秋に、本学総合研究所の共同研究申請を行った。その結果、平成27年度より、本学総合研究所の共同研究の採択を受けて、研究テーマ「共生（ともいき）の理念に基づいた保健医療福祉専門職のためのIPEプログラムの開発と評価」の研究活動を開始した次第である。共同研究学部は、仏教学部、社会学部、社会福祉学部、そして、看護学科、作業療法学科、理学療法学

科がある保健医療技術学部である。

本論文集では、3年間の活動について、報告するものである。